

かぜのきざし

2011 NOVEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第017号

2011年11月15日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

新会長のごあいさつ 苛原 実



皆さん、こんにちは。
千葉県松戸市で有床診療所
を開業しております、いらは
ら診療所の苛原実です。

9月19日に松本大会開催中
に行われた理事会で、黒岩
卓夫前会長の勇退に伴いまし
て、2代目の会長に選ばれま
した。

在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワークといえ
ば黒岩会長であり、当会のシ
ンボルでもある会長がおやめ
になることは非常に残念なこ
とではありますが、黒岩先生
自身の強い希望もありやむを
得ないことと思います。ネッ
トワークを育て、我々を導い
て下さった黒岩前会長に心か
らお礼を申し上げます。また、
今後理事として残ってくだ

さり会の運営をご指導いただ
けることに感謝いたします。

私がネットワークに初めて
参加したのは、1995年
に神田パンセで行われた第1
回全国の集いからです。たま
たま、新聞の小さな記事で大
会のことを知り、興味を持っ
て参加しました。その後第4
回大会では実行委員として大
会の運営に携わり、第7回大
会では副大会長として運営を
支えました。2004年、第
10回大会は千葉の幕張メッセ
で行われ、大会長となりました
が、閉会式で胸に迫るもの
があり言葉が出なくなったこ
とは今でもわすれません。
このネットワークの歩みと
平行して、自分の診療所も
徐々に拡大をしてゆきまし
た。シンポジウムや大会運営
で様々なことを学びながら、
実践していったともいえま
す。現在は医療法人と、株式
会社で21事業を行っており、
医療だけでなく多数の介護施
設も運営しています。果たし
て事業拡大が本当に良かった

のかどうか、いまだ答えが出
ておりませんが、提供する
サービス内容や質は確実に上
がってきたと思います。

私が会長として、この2年
間の目標にすることは2点あ
ります。まずは「世代交代」
です。ネットワークが今後も
我が国の在宅ケアの推進に貢
献して、存続をしてゆくため
には、ゆるやかな「世代交代」
は必要です。もちろん、これ
まで理事として会を支えてく
ださった方々には引き続き当
会での活動をお願いします
が、新しく一緒に活動をして
いただける方々も仲間に入れ
てゆく必要があると思ってお
ります。

もう一点は、「多職種協働」
をさらに進めることではない
かと思います。在宅医療や看
護、介護に関する様々な組織
がある中で、我々の会は市民
も含めた多職種の集まりであ
り、それぞれの立場で、同じ
目線で話し合ってきました。
厚労省が来年度より推進する
「包括的地域ケア」もまさに、
「多職種協働」の上に成り立つ
ものです。その観点からも、
「多職種協働」で日々地域にお

いて実践を続けている、われ
われ現場の声を国へ提言して
ゆけるように頑張つてゆきた
いと思います。

我々の理念は「お年寄り、
障がい者、子供たちが安心し
て暮らせるコミュニティの創
造」です。すなわち、ゆるや
かな「世代交代」をして新し
い仲間を増やし、地域の中
で「多職種協働」で市民を含
めた多くの人の力を合わせな
がら、安心をして暮らせるコ
ミュニティを作つてゆくこと
理念の実現となるわけです。
実際にネットワークには市民
を含めて多職種の方々が集
まっておりますが、日常活動
での医療や看護、介護の連携
を通じて住みやすい地域づく
りをしてゆくという思いは
共通のものがあると思ってお
ります。

私には黒岩前会長の様な、
カリスマ性も求心力もあり
ませんが、私を育ててくれ
たネットワークを愛する気
持ちはよりどころとして、
精一杯努力をして汗を流し
たいと思います。会員の皆
様、どうぞよろしくお願い
申し上げます。

会長退任のごあいさつ

信頼と感動を絆に

黒岩卓夫



ネットワーク発足以来17年間、希望と活力に満ちた皆さんと共に歩めたことに心から感謝します。

退任にあたり、会員の皆さんに私が今思っていることを語らせていただきます。

医療・介護をひとつの仕事と考へての発言ですので、それぞれの立場からすると少々食い違ふところは御容赦下さい。

仕事を内側から見直す

自分の仕事を内側から見直して下さい。たとえば在宅医療の24時間体制をどうするかと考へたとき、官僚的制度的発想は、規則等で外から縛る

ことになります。一方、医師と患者(家族)の関係からみれば、24時間は当たり前で、その実行は両者の信頼関係から出発します。**信頼関係**が築かれて行けば、看取る時でも、医師が立ち会ふのはリアルタイムでなくても、亡くなつてから朝になつてからでも可能です。少しお酒を飲んでいても運転以外はわけをことわれば、家族は受け入れてくれます。そうした関係こそ、在宅の醍醐味と言つても良いでしょう。人間的にお互いががんばつてゐるからこそ実現できる信頼関係と思います。

多職種協働の前に自分を

多職種協働の前に自分を改めて考へて下さい。介護であれば自分は今、どこに立っており、何をしたいと思つてゐるのかです。こうした大上段の構えが無理であれば、何事にもこれでいいのか、もつとちがうやり方はないのかといった、疑問を懐くことです。この疑問が「**哲学する態度**」に通じます。こうした積み重ねが、たとえば老いとは何か、死とは何かにヒン

トを与えるでしょう。

感動が共有の絆

感動を大切にして下さい。患者(利用者)に寄り添い、家族、医師、看護師、介護ワーカーなど、心をひとつに懸命に看取れば、悲しみや空しさはあれ、それぞれの心に精いっぱいやったという感動も生まれます。この**感動を共有**することが、多職種協働の核心だと思います。

医師こそ市民の感性を

医師がまず、市民の感性に近づけということ。ネットワークが「市民」との協働を呼びかけるとすれば、まず自ら市民に接近することです。良寛が子どもと一日中遊べたのは、良寛のポリシーではなく、良寛自身が子ども(以上)になりきつてゐたからであり、子どもから本当の仲間と信頼されたからです。

以上4点が退任にあつて皆さんに贈りたい言葉です。今後も共に歩んで行きたいと思つてゐます。宜しくお願ひします。

摂食回復支援食

人あいにと®



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の
食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。



お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエヌ大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 スタービルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)

「中高齢者の腰曲り予防」

― 背曲り予防 ―

愛知医科大学運動療育センター教学監

丹羽 滋郎



◆愛知医科大学運動療育センター教学監
丹羽 滋郎氏

私たち日本人は高齢になると、腰の曲がった人を多く見かけますので、最初は腰曲りの予防について、変わった体操（腹這い体操）のことを述べましたが、その効果はいかがでしたか。腰曲りの方をよく観察しますと、腰はあまり曲がっていないが、背中が曲がっている方も時々見かけます。この背曲りは、外国の教科書に良く見かけます。これは背の高い外国の方に多く見かけられますが、最近わが国も、生活様式が変わり、椅子に腰かけて机に向かって、前かがみの仕事をする事が多いこともその一つの原因で

5 kgの重い頭を前に出し、

肘は机の上につき、時に上半身を浮かした姿勢を考えますと、その姿勢は丁度、背中を円くした形となり、椅子に腰かけていますので、腰は比較的真っ直ぐな状態となつていきます。この姿勢を真横から見ますと両肩は前に出ていることが理解できます。

この姿勢は自然に肩甲骨が前に出ることになり、私達の仕事をし易くしてくれています。この時の筋の働きは、胸の代表である両側にある大胸筋が、いつもこの姿勢を保つために、しっかりと上半身を支えていることになります。反対の背の中の方は、肩甲骨が前に出てきますので、両側の肩甲骨を身体を中心へ支える筋は、伸びた状態となり、更に背柱に付く筋である脊柱起立筋などは、前へ曲がった状態で、作業がし易いよ

うに前・後バランスよく働いています。

この様な状態が長い期間続いていますと、脳は最も効率的にこの仕事が出来やすい、良い状態のシステムを作るようになり、いわゆる名人芸の形となります。しかしこれが長期間続きますと脊柱の動きが少しずつ悪くなり、脊柱を支える仕組みが固くなってきます。

その予防運動について、少しアドバイスをしましょう。時々手を休めて、予防運動をすることにより背曲り予防を行つては如何でしょうか。

前回から述べています様に、私達の筋の働きは、例えば肘を曲げる時、曲げる働きの筋が収縮する時は、反対の伸ばす筋は緩んでくれていきます。そして脳がこれをバランスよく緩めたり、縮めたりしています。（これを相反性抑制といいます。）

先ず、始めに片方の手で、

胸の前で、反対の肘を出来るだけ引き寄せて、10数えて下さい。次に反対の肘を同じように胸の前で引き寄せてください。これによって、大胸筋が十分収縮した後、緩んでくれます。これがコツです。

この後、両肩を出来るだけ後ろへ反らすように、両肘を後ろで抱えるように、またこの背中筋の筋を寄せる感じに、またゆっくりと軽く頭を反らす運動を行ってください。この運動を3〜4回ゆっくり繰り返すと良い感じになってきます。

最後は壁にもたれて、爪先立ちを2〜3秒間、数回行うことにより、なんとなく背が伸びた感じがします。

この運動は、頑張るのでなく休養のつもりで楽しく時々行うことがコツです。私達の身体は少なくとも3、40 kgありますので、十分な脳に良い刺激を与えてくれていきます。この運動は是非1日、1、2回は行って、継続することが大切です。効果を期待して

エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現を
お手伝いいたします。
すべては、医院開業の
成功のために。

61A-0294



おかげさまで創立60周年

ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4

創立/1951年8月

事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援

検索

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>

E-mail :Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの10～11月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。) メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

実践交流会・ポスター発表 優秀者

看取り	
1歳2カ月で他界した障害児からのメッセージ	船戸 崇史 (船戸クリニック)
新しい取り組み	
介護支援専門員としての新たな取り組み	小澤 かおり (医 清風会 宮坂医院)
訪問・通所サービス	
肺がん末期の利用者に対する通所リハビリの経験を通して	齋木 瞳 (医 社団揚石医院こぶしリハビリセンター)
口腔ケアと栄養管理	
有料老人ホーム入所を機に本人、家族の望む生活へ	田戸岡 恵 (生活介護サービスユーカリ小金原)
住民と交流・連携による地域づくり	
自然に恵まれた豊かな環境の中で～地域の 人に支えられて～	谷口 愛美 (社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会)
多職種協働(多職種連携)	
「家」は「病院」にもなれるのか? - 急性 期医療における多職種連携の経験を通して -	長田 美保 (医 社団つくし会訪問看護ステーション)
在宅生活の継続	
最期まで大切な人と共に一利用者と家族の 思いを守るための医療と介護の連携～	佐野 明美 (医 社団都会 渡辺西賀茂診療所)
認知症	
皆が私の悪口を言う! 皆に私は殺される!	盛次 義隆 (D r. 盛次診療所)
障がい児・者	
笑顔あふれるかわわりー重症心身障がい児・ 者と高齢者のかわわり	近藤 眞理子 (医 あいち診療会あいち診療所滝の水)
サービスの質の向上	
シームレスな退院支援をめざして	奥村 圭子 (医 メディライフ在宅総合センターメディライフ)
変わりゆく地域の医療・福祉を考える	
アルツハイマー発症から在宅看取りを終え たご夫婦からの学び	山田 登喜子 (特定非営利活動法人ゆうらいふ)
変わりゆく地域の医療・福祉を考える	
東日本大震災を経験して～災害時の訪問看 護ステーションの対応～	最優秀賞三浦 智香子 (医 社団松村クリニックやまもと訪問看護ステーション)
看取り/認知症	
終身医療と家族との関わり	小泉 晴美 (医 社団萌気会 萌気園居宅介護支援事業所)
看取り/認知症	
Aさんの強い意志と多職種が生んだキセキ	吉村 祐貴 (医 社団都会 グループホームほっこり庵)
新しい取り組み/多職種連携	
知的障がい者の実習をグループホームで受 け入れて	伊藤 慎一 (医 あづま会 グループホームおおいど)
新しい取り組み/多職種連携	
笑顔! お届けします!	上條 吉直 (塩尻道化組合)
訪問・通所サービス/質の向上	
活動性と意欲の関係～活動への意欲が長生 きの秘訣～	田畑 和美 (医 社団都会西賀茂デイサービスセンター)
訪問・通所サービス/質の向上	
人材育成で自らも育つ!! ～共に育つ仕組 み作り～	上総 沙弓里 (社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会)
在宅生活の継続	
訪問リハの効果に影響する要因～短期間で ADLの改善をみた症例を通して～	広田 創 (医 社団実幸会 南柏訪問看護ステーション)
在宅生活の継続	
独居生活を支える私たちの取り組み～A氏 にとっての自由とは何か～	服部 美千代 (医 社団都会 渡辺西賀茂診療所)

法人会員様の活動紹介
第17回全国の集い in しんしゅう2011

日時: 2011年9月18日(日)・19日(月・祝)

場所: 長野県松本文化会館・松本市総合体育館・信州大学医学部付属病院

テーマ: 住みなれた地域で

最期まで暮らしつづけるために
大会長: 宮坂 圭一

全国の集い in しんしゅうは盛況のうちに終えること

ができました。全国から多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

諏訪中央病院 名誉院長 鎌田實先生による市民公開講座「自ら望むところで生き、死ねることの幸せ」や、引き続き行われました黒岩会長、大会長宮坂先生との鼎談他、理事会企画東日本大震災と在宅ケア「震災と

在宅ケア」などが行われ、熱気のある空気に包まれました。



事務局ニュース2011:9 臨時号



当院は千葉県松戸市常盤平で開業している内科無床診療所です。「一人診療所」ですが、「オールラウンドな内科診療」を行うアクティブな医院です。また、外来の延長や縁あって紹介

法人会員様の活動紹介 医師・法人会員「医療法人社団緑星会 どうたれ内科診療所」の活動

された患者さんなど、約40人前後の在宅患者さんを診ております。したがって在宅の半数くらいは月1回の往診です。

診療所は99年1月から開業したのですが、この11年余りで(確認済みの方のみで)414人亡くなられ、うち看取り数は67人(16%)、39人(9%)が自宅死で、病院死は276人(67%)でした。看取り数は在宅専門クリニックからみれば少ないでしょうが、全国平均より高率です。一晩にたて続けで二人を看取ったこともあり、さすが

にその翌日の外来はふらふらしていました。

都市型クリニックで、連携している病院の検査体制や医療機器を活用し、病院の外来と遜色ない医療を心掛けております。別途近くのビルに、あい訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を併設しています。訪問看護の方も他院と連携して年間30人以上の看取りを行っています。

診療所は、「家族ぐるみの健康管理」や「20年以上の長期管理」や「在宅で看取った患者さんのご家族を



診療する」という、町医者ならではの患者さんとの付き合いをおります。他に、松戸市認知症研究会会長、常盤平高齢者支援連絡会専門部会長、松戸市医師会在宅ケア委員を務めています。当学会にも発表した「一人暮らしあんしん電話」を試み社会貢献を心掛けています。また、黒岩卓夫先生のご計らいで、常盤平高齢者支援連絡会に厚労省の若手職員にも参加して頂き、対処困難事例の検討を通じ

事務局ニュース2011・11

全国の集いin高知2012 準備進捗状況について

理事長 福田 善晴
来年9月16日(日)・17

日(祝)の連休に『おらんくで自分らしくさいごまで』(地域の未来を考える)をテーマに掲げ「第18回全

一人診療所で過酷な労働となつていますが何とか「街づくり」に貢献したいと考えています。

千葉大学医学部臨床教授
堂垂伸治

しんしゅう大会スナップ



最優秀賞：三浦智香子さん

国の集いin高知2012」が高知市文化プラザかるぽーとで開催されます。全国の集いとしては四国初の大会です。

昨年、全国の集いin名古屋のプレ大会を高知で開催し、高知で実行委員会を組織しました。今現在実行委員はプレ大会時より増加し、高知県内の医師に徳島、香川、愛媛の医師を加え、歯科医師会、高知県薬剤師会、高知県老人福祉施設協議会、高知県社会福祉施設経営者協議会、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、高知県栄養士会、日本精神保健福祉事業連合、身体障害者療護施設、認知症の人と家族の会、高知市老人クラブ連合会、高知女子大学、高知県地域生活定着支援センター、高知市市民活動サポートセンター、市民の方々など(順不同)各方面で活躍されている方々で、会では活発な意見が聞かれ、在宅ケアに対する熱意を感じます。今後実行委

員会の開催頻度を多くし、大会運営について議論を進めていく予定です。

高知大会Ⅱ四国大会となるよう順次徳島、香川、愛媛でプレ大会を開催し、協力し合って大会を盛り上げます。去る10月10日(祝)「みんなを支える在宅ケア」をテーマに徳島プレ大会が大会長・村山内科医院、村山善紀先生及び徳島実行委員のご尽力により、盛会に開催されました。来年2月26日(日)香川プレ大会(大会長・在宅診療敬二郎クリニック、三宅敬二郎先生)、5月20日(日)愛媛プレ大会(大会長・医療法人ゆうの森、永井康徳先生)を開催し、四国一周のアンカーは高知での全国大会となります。

四国プレ大会に是非ご参加いただき、四国の在宅ケアへの想いを高知大会へ繋いでいただければ幸いです。尚、準備進捗状況は随時このメールマガジンにてお知らせ致します。

医師・法人会員活動紹介

辻内科循環器科歯科クリニック院長
医療法人社団翔洋会理事長

辻 正純

当院は東京都練馬区で内科の有床診療所(19床)で、在宅療養支援診療所として在宅医療にも取り組んでいます。また併設施設として介護老人保健施設「大泉学園ふきのとう」や訪問看護ST「ふきのとう」、小規模多機能居宅「大泉学園



やまぼうし」を運営しています。開業前には今回会長になられた苛原先生や堂垂先生と千葉県松戸市の病院で一緒に活動した経験もあり、7年前のネットワーク千葉大会では運営委員もさせて頂きました。

当クリニック(平成10年4月開設)では循環器診療と並んで、糖尿病や認知症診療にも力をいれております。糖尿病は「糖尿病療養指導医」として、糖尿病教室も定期的に開催しています。また、認知症は「認知症学会専門医」として物忘れ外来を開設し、さらに今年4月にMRIを導入して、早期診断・治療および非薬物療法も積極的に取り組んでおり、脳リハビリデイサービス「はなみずき」を併設して認知症の進

行防止を図っています。

また大病院や近隣の大病院と連携しながら、リハビリテーションや内科的合併疾患の治療にも取り組んでいます。また最近では歯科大の協力を得て嚥下障害の評価と指導・リハビリにも取り組み始めました。

東京都医師会の「地域福祉委員会委員」、練馬区医師会では「介護保険担当理事」を務めています。また「日本内科学会内科専門医」や「日本循環器学会専門医」のほか、大病院から(地域医療)研修医を受け入れており、地域医療の現状や認知症診療・介護保険の研修を行っています。

また練馬区在宅医療研究会の代表世話人、認知症関係では練馬区認知症研究会の世話人や認知症予防学会(浦上克哉理事長)の常任理事を務めています。

辻内科循環器科歯科クリニック
〒178-9961
東京都練馬区大泉学園町8-24-25
TEL 03-3924-2017
FAX 03-3924-2067
E-mail: nasszumi0218@com.home.ne.jp

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国の集いinしんしゅう2011に参加して

全国の集いin高知2012大会長 医療法人大和会 社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 理事長 福田 善晴



◆医療法人大和会社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会 理事長 福田 善晴氏

「全国の集いinしんしゅう2011」のご成功おめでとうございます。大会長はじめ実行委員、スタッフの皆さま、準備並びに大会運営等、本当にお疲れさまでした。私はNPO理事及び次年度大会長として参加し貴重な体験をさせていただき、また大和会グループから22名参加し、実践交流会にて7例報告して多くの学びを得られましたこと、重ねてお礼申し上げます。

日本アルプスを背に、日本最古の天守である国宝松本城がそびえる優美で歴史的環境の中、会場は参加者

の在宅ケアに対する熱い想いで溢れていました。

2日間を通して全国各地の先進的な取り組みや心温まる話など充実した内容で、心にエネルギーをいただいたように思います。私は自分の専門分野と異なる「障がい児・者」カテゴリの座長を務め、富山方式のような障がい児や認知症高齢者を同一空間でケアされている事例など様々な実践報告を拝聴し、在宅ケアを支えていく根幹は疾病や障がいなど専門分野を問わず共通していると再認識できたことは大きな収穫です。垣根を越えたネットワーク構築が達成すべき重要課題であると考えます。

残念なことに四国内ではこのネットワークを知らない方が多く、私は会員となつ

て13年間、本大会を四国高知で開催し、在宅ケアのネットワーク化及び地域づくりに貢献したいと熱望してきました。長年の念願が叶い、

来年9月16日(日)・17日(祝)の連休に『おらんくで自分らしくさいごまで』(地域の未来を考える)をテーマに「第18回全国の集いin高知2012」を開催します。また高知大会Ⅱ四国大会となるようプレ大会を開催し、

協力し合って大会を盛り上げる予定です。去る10月10日(祝)「みんなで支える在宅ケア」をテーマに徳島プレ大会(大会長・村山内科医院村山先生)が口火を切り、黒岩前会長の基調講演後、4分科会にて活発な議論が展開され、会場に参加者が入りきらないほど盛会でした。徳島県民の在宅ケ

アに対する想いを受け継ぎ、来年2月26日(日)香川プレ大会(大会長・在宅診療敬二郎クリニック三宅先生)、5月20日(日)愛媛プレ大会(大会長・医療法人ゆの森永井先生)の順に開催し、四国一周リレーしてアンカー高知大会へバトンを繋ぎます。

四国は「一般病床数」「介護療養型医療施設数」「介護保険施設定員」(人口10万人に対する割合)が全国平均を大きく上回る水準にあり、施設や病院でさいごを迎えられる方が多い状況ですが、



介護保険法・高齢者住まい法改正大特集

□第5期介護報酬予測

〈訪問介護〉「24時間サービス」創設で基本報酬大幅減算
〈訪問看護〉「報酬増より開設要件緩和」求める声
〈通所介護〉基本単価減算の方向か
〈特定施設〉前回プラス改定の反動は?
〈小規模多機能型〉軽度の報酬増に期待 ほか

□24時間定期巡回・随時対応訪問サービスの状況

今年度モデル事業者の運営状況、既存居宅サービスとのすみ分け ほか

□複合型サービス(小規模多機能型+訪問看護)の進展

人員配置・報酬体系、24時間サービスとの連携 ほか

□「サービス付き高齢者向け住宅」登録状況調査

補助金申請状況、各自治体の登録状況、高齢者居住安定確保計画の作成状況 ほか

□老人福祉法改正による影響

入居一時金制度改定後、各老老事業者の取り組み、有料老人ホームとサビ住の一体化問題 ほか

主な特集内容

高齢者の住まいと介護・医療を考える

高齢者住宅新聞

新規購読のご案内

2012年新年特大号

平成24年1月5日号

購読お申し込みは
右記のいずれかの
方法で

TEL

03-3543-6852

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

メール

info@koureisha-jutaku.com

FAX

03-3543-6853

※高齢者住宅新聞購読とご用命のうえ、
お名前、会社名、ご連絡先、ご住所をお知らせ下さい。

新聞購読申込

下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

●発行形態/定期購読・タブロイド版(20ページ)
月3回(5・15・25日)発行
●主要読者層
施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、
社会福祉法人、人材サービス、給食配食会社、
不動産・建設会社、土地所有者、設備機器・建材、
システム関連、金融関連、自治体ほか
年間購読料 18,000円(税込・送料別)



在宅ケアとは自宅のみならず、住み慣れた地域において自分らしくさいごまで暮らし続けられるよう支え合うことだと私は考えます。地域のニーズに応えるため、フォーマル・インフォーマルや各分野を問わず、あらゆる機関、職種、市民が連携・協働し、一丸となってネットワークを構築することが何よりも先決です。地域全体が支え合える関係を作る、これこそが地域の中で保健・医療・福祉が完結する原点といえます。テーマにある「お

らんく」とは土佐弁で「自分の家／自分のいるところ」という意味があり、自分らしい生活が継続できる地域社会を構築するため、しんしゅう大会や過去の大会を継承し、全国の様々な実践やシステムを共有しデイスカッションを重ね、おらんくの四国を中心にした新たな展開が生まれることを期待しています。「老後一日も楽しまずして空しく過ごすはおしむべし。老後一日、千金にあたるべし。」貝原益軒が養生訓に残した言葉であり、私の想いそのものです。患者様、利用者様に千金の一日を送っていただくことは在宅ケアに携わる私たちにとって、何よりの願いです。

土佐の高知は、太平洋を「おらんくの池」に見立てる豪快な気質で坂本龍馬を生み育て、また自由民権運動発祥の地でもあります。美味しい肴、お酒を手に在宅ケアを熱く語り合い、ネットワークの新たな夜明けとなることを願っております。来年皆さまと南国の地高知で、お会いできることを楽しみにしております。

香川プレ大会

テーマ： **老いても病んでも我が家で暮らせる地域づくり**

開催日時 | 平成24年2月26日(日)
午後0時より午後5時まで(予定)

会場 | 香川県社会福祉総合センター
高松市番町1丁目10番35号

大会長：三宅敬二郎先生
(在宅診療 敬二郎クリニック)

副大会長：大橋英司先生(大橋内科胃腸科)
赤井 護先生(赤井クリニック)

内容：シンポジウム1

高松の在宅医療の現状 ～ 多職種のアンケート調査から現在在宅に関わる多職種のアンケートを行政、医師会を通じて調査中。
結果をもとに、高松市の現状について検討する。

シンポジウム2

四国の在宅診療の現状 ～ 隣県での取り組み。

シンポジスト

愛媛県(たんぼぼクリニック)	永井康徳 先生
徳島県(徳島往診クリニック)	吉田大介 先生
高知県(あおぞら診療所)	和田忠志 先生
香川県(在宅診療 敬二郎クリニック)	三宅敬二郎先生

風の萌

2011年11月15日発行(第017号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0007 愛知県名古屋市区緑区竈山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

いよいよ新会長の元での新しい船出の年となりました。編集を通じ、いろいろな意味でこれまで以上に大きく変わるべき時期に来ていると感じます。

事務局に於いても、これまでの経緯を踏まえ、今後の会の活動にできる限り貢献すべく、担当者一同、気を引き締めて行くべく頑張ります。

(T.Y.)